中学２年　国語科　教材別テスト⑧　模範解答・解説

教材別リメイク版　中学２年　国語／「扇の的―『平家物語』から」（光村図書『国語２』）

【このテストの使い方】

教科書の現代語訳や脚注は載せていません。**教科書『国語２』の「扇の的―『平家物語』から」のページを開いたまま**解答します。問題用紙には、公有（著作権の保護期間が終わっている）の**古文原文**だけをのせています。古文は「声に出して読む」ことが理解の第一歩です。七五調のリズムと擬音語を味わってから、設問に取り組ませてください。

配点一覧

観点	大問	内容	配点
知識・技能 50点	一	漢字の読み書き（20問）	１点×20＝20点
	二	歴史的仮名遣いと古語の意味	２点×９＝18点
	三	古典の基礎知識（成立・ジャンル・語り・表現技法・対句・合戦）	２点×６＝12点
思考・判断・表現 50点	四	「扇の的―『平家物語』から」の読解（12小問）	50点
合計			**100点**

【出題のねらい】

①　歴史的仮名遣いを現代仮名遣いに直す規則（は行→わ行、ゐ→い、やう→よう、けふ→きょう など）が身についているか。

②　『平家物語』が**鎌倉時代の軍記物語**で、**琵琶法師**によって**平曲**として語り継がれたことを理解しているか。

③　与一の**重圧・緊張・名誉を重んじる心**を、祈りの言葉や行動から読み取れるか。

④　**擬音語（よつぴいて／ひやうど／ひいふつと）・七五調・対句**が生む臨場感に気づけるか。

⑤　敵味方をこえた称賛の直後に置かれた**老武者の射殺**という展開から、合戦の非情さと**無常観**へつなげて考えられるか。

一　漢字の読み書き　（１点×20＝20点）

番号	解答	番号	解答
①	おうぎ	⑪	軍勢
②	ぼうとう	⑫	源平
③	むじょう	⑬	勇ましい
④	かぶと	⑭	感嘆
⑤	い（る）	⑮	緊張
⑥	しょうはい	⑯	小舟
⑦	ばくふ	⑰	弓矢
⑧	おとろ（える）	⑱	静まる
⑨	いの（る）	⑲	武士
⑩	めいしゅ	⑳	誇る

小計　20点

【注意したい字】

①「扇」は「おうぎ」。「せん」と音で読まないこと。③「無常」は「無情」と書き分ける（「無常」＝移り変わること／「無情」＝思いやりがないこと）。⑤「射る」は「い（る）」で、送りがなまで必要。「しゃる」は誤り。⑧「衰える」は「おとろ（える）」。「すいえる」は誤り。⑪「軍勢」の「勢」を「成」と書かない。⑫「源平」は「源氏」と「平氏」の略。⑬「勇ましい」は送りがなに注意（「勇しい」は誤り）。⑭「感嘆」の「嘆」は「歎」でもよいが、教科書体では「嘆」。「感短」「感担」の誤りが多い。⑮「緊張」の「緊」は上部が「臤」。⑳「誇る」は「ほこる」。「誇」は「言（ごんべん）」に「夸」。**送りがなが必要なのは⑤・⑧・⑨・⑬・⑱・⑳の六問。**

二　歴史的仮名遣いと古語の意味　（2点×9＝18点）

番号	解答	解説
(1)	**いう**	語中・語尾の「ふ」は「う」。「いふ」→「いう」。原文「いづれもいづれも晴れならずと**いふ**ことぞなき」。
(2)	**つがい**	語中・語尾の「ひ」は「い」。「つがひ」→「つがい」。原文「かぶらを取つて**つがひ**」＝矢を弓の弦にかけること。
(3)	**ひょうど**	「やう」は「よう」。「ひやう」→「ひょう」。矢が飛ぶ音を表す擬音語。
(4)	**おめく**	語頭の「を」は「お」。「をめく」＝大声で叫ぶ。語頭でも「を」→「お」となる点に注意。
(5)	**きょう**	「けふ」→「きょう」。「け＋ふ」が「きょう」になる、覚えておくべき代表例。
(6)	**たまえ**	語中・語尾の「へ」は「え」。原文「射させて**たばせたまへ**」。「たまへ」→「たまえ」。
(7)	**イ**	「あやまたず」＝ねらいをはずさず、あやまちなく。原文「**あやまたず**扇の串際一寸ばかりおいて」。
(8)	**ア**	「あつぱれ」＝みごとだ、りっぱだ。感嘆を表す語。「あはれ」が変化した語で、現代語の「あっぱれ」に残る。
(9)	**ウ**	「しばし」＝しばらくの間、少しの間。原文「**しばし**は虚空にひらめきけるが」。

小計　18点

三　古典の基礎知識　（２点×６＝12点）

番号	解答	解説
(1)	**ウ（鎌倉時代）**	えがかれている源平の争乱は平安時代末期の出来事だが、作品として成立したのは**鎌倉時代**。「えがかれた時代」と「成立した時代」を混同しないこと。
(2)	**軍記物語**	合戦や武士の活躍をえがいた物語。『保元物語』『平治物語』『太平記』なども同じジャンル。「歴史物語」「戦記物語」は不可。
(3)	**琵琶法師**	琵琶を弾きながら語り歩いた芸能者。その語りは**平曲**と呼ばれ、文字を読めない人々にも広く伝わった。『平家物語』が「語り物」として整えられた理由。
(4)	**ア（直喩）**	「ごとし」「同じ」などの語を使い、「〜のようだ」とたとえる表現が**直喩**。「隠喩」は「ようだ」などを使わずに言い切るたとえ。
(5)	**対句**	「祇園精舎の鐘の声―諸行無常の響きあり」と「沙羅双樹の花の色―盛者必衰の理をあらはす」が対になっている。「対句法」も正答。「反復」「倒置」は不可。
(6)	**イ（屋島の戦い）**	讃岐国（今の香川県）屋島での戦い。沖＝平家（舟）、陸＝源氏（馬）という**海と陸の対立**が場面設定の前提になる。

小計　12点　／　知識・技能　合計　50点

【歴史的仮名遣いの基本ルール】

①　語中・語尾の**は・ひ・ふ・へ・ほ→わ・い・う・え・お**（あはれ→あわれ／つがひ→つがい）。②　**ゐ・ゑ・を→い・え・お**（ゐる→いる／をめく→おめく）。③　**au・iu・eu**の形**→ô・yû・yô**（やう→よう／けふ→きょう／てふ→ちょう）。④　**ぢ・づ→じ・ず**（いづれ→いずれ）。

※「よつぴいて」の促音・撥音のように、読み方が複数ありうるものは本テストでは出題していません。

四　「扇の的―『平家物語』から」の読解　（50点）

番号	解答	解説・採点のポイント
(1) 4 点	**イ**	扇は「射てみよ」という**挑発**。当てれば平家の面目が立たず、はずせば源氏が大勢の前で恥をかく。どちらに転んでも源氏に重圧がかかる仕掛け。ア・エは敵対関係と矛盾、ウは本文と無関係。
(2) 5 点	**（例）射損じれば源氏全体の恥となると考え、重圧を感じたため。(27字)**	**「失敗すれば源氏（主君・味方）全体の恥になる」**（３点）＋**「重圧・不安を感じた」**（２点）の二点で採点。 「自信がなかったから」だけは２点。「めんどうだったから」「けがをしたくなかったから」は０点。二十五～三十五字から外れたら－１点。文末が「～ため。」になっていなければ－１点。
(3) 4 点	**ウ**	辞退しても義経は許さず、**名指しの命令**として重ねて命じられた。断れば主君への不忠となる。武士の主従関係が背景にある点が重要。ア「自信があった」は(2)と矛盾するので×。
(4) 4 点	**イ**	波に揺れる舟の上の小さな扇という**至難の的**。「目をふさいで」祈る動作が、人の力をこえた助けを求めるほどの緊張を示す。ウ「信じきっている」は、祈りに続く「射損ずるものならば自害して」という不安と合わない。
(5) 5 点	**（例）武士としての名誉を、自分の命よりも重いものと考えていたこと。(30字)**	**「名誉・面目・武士としての誇り」**（３点）＋**「命より重い／命を捨ててでも守るもの」**（２点）の二点で採点。 「死ぬ覚悟があったこと」だけは２点。「弓が上手だったこと」は０点。二十五～三十五字から外れたら－１点。
(6) 4 点	**ア**	「よつぴいて」＝十分に引きしぼって、「ひやうど」「ひいふつと」＝矢の音。**擬音語・擬態語**が、読者をその場に立ち会わせる。琵琶法師が声に出して語ったことと結びつけて考えさせたい。
(7) 2 点	**七五調**	七音＋五音のくり返し。「五七調」「七五七五」は不可。対句と組み合わさって、語りやすく覚えやすいリズムを生んでいる。
(8) 5 点	**（例）敵味方の区別を超えて、与一のみごとな腕前を両軍がともに称賛したこと。(34字)**	**「敵味方（源氏・平家）の両方が」**（２点）＋**「与一の腕前・技を称賛した」**（３点）の二点で採点。 「源氏が喜んだ」だけは０点（**平家**もたたえていることが要点）。「音を立てた」など動作をなぞっただけは０点。三十～四十字から外れたら－１点。
(9) 4	**イ**	源氏は「どよめき」、平家は「音もせず」。**音のあるなし**の対比が、勝者と敗者の明暗をくっきりと示している。老武者が射倒さ

点		れた非情さにも気づかせたい。

四　「扇の的―『平家物語』から」の読解（つづき）

番号	解答	解説・採点のポイント
(10) 4 点	**（例）命中をたたえる声と、無情さを責める声の両方があったこと。(28字)**	「**命中をほめる声**」（２点）＋「**心ない・やりすぎだと批判する声**」（２点）の二点で採点。 「意見が分かれたこと」だけは２点。**味方の中にも割れる受け止め方があった**ことを書けているかが分かれ目。二十五～三十五字から外れたら－１点。
(11) 2 点	**和漢混交文**	和語の語り口に漢語・漢文訓読調の表現がまじった文体。「和漢混淆文」も正答。「和文」「漢文」「混合文」は不可。
(12) 7 点	**（例）華やかな的中の称賛も直後の殺害で消え去り、栄華や命がはかなく移り変わることを示している。(44字)**	**【ルーブリック】** ・A（７点）…「**称賛・晴れやかさがすぐに失われる（転じる）**」＋「**栄華や命がはかなく移り変わる＝無常**」の両方が書けている。 ・B（５点）…どちらか一方＋冒頭の「諸行無常」「盛者必衰」への言及がある。 ・C（３点）…「人の命はもろい」「平家はやがて滅びる」など、無常に近い内容が一つだけ書けている。 ・D（０点）…場面のあらすじを書いただけ／「与一がすごい」といった感想だけ。 ※　四十～五十字から外れたら－１点。「無常」を「無情」と書いた場合も－１点。

思考・判断・表現　合計　50点　／　総合　100点

【この教材で落としやすいポイント（８つ)】

1. **えがかれた時代（平安末期）と成立した時代（鎌倉時代）は別**。成立・ジャンルは「鎌倉時代／軍記物語」とセットで覚える。
2. 『平家物語』は読み物である前に**語り物**。琵琶法師が**平曲**として語ったため、七五調・対句・擬音語が多い。
3. 場面は**屋島の戦い**。**沖＝平家（舟）／陸＝源氏（馬）**という対比が、文章全体の骨組みになっている。
4. 平家が扇を立てたのは風流ではなく**挑発**。「当てても当てなくても源氏が困る」仕掛けだと見抜くこと。
5. 与一の祈りは「信心深いから」ではなく、**祈らずにはいられないほどの緊張**の表れ。心情を問う設問では「緊張・重圧・不安」の語を使う。
6. 「自害して、人に二度面を向かふべからず」は、**名誉が命より重い**という武士の価値観。現代の感覚で「大げさ」と書くと０点。
7. 扇を射落としたあとの感嘆は**源氏だけでなく平家も**している。「敵味方を超えた称賛」が最大のポイント。
8. 直後の**老武者の射殺**と「平家の方には音もせず」の静寂を忘れないこと。美しい名場面で終わらせず、**合戦の非情さ・無常観**へつなげるのがこの教材の山場。